

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

先日、次女が通う小学校で、間もなく卒業する6年生の子ども達に将来の夢や職業を具体的にイメージさせるキャリア教育授業がありました。その一環で、保護者が自分のキャリアを子ども達に話して聞かせる機会があり、さてどうすれば今の自分の仕事を小学生に分かりやすく説明できるか、という難題に直面しました。当会の仕事は、ひと言で言うならば公共工事の積算で用いられる建設資材や工事費の価格調査といったところでしょうか。しかし、新入職員へのOJTですら当会の仕事の内容と意義を理解して貰うのに時間がかかるというのに、まして相手は小学生。公共工事の積算の仕組みや資材価格を調べる意義と手法を説き、果たして子ども達がバラ色の職業イメージを持ってくれるだろうか。将来、社会を背負って立つ金の卵たちに対する責任の重大さにハタと気付き、授業前の数日は悶々とした日々を過ごしました。そんな折、ふと思い出したのが技術士試験の口頭試験で問われたひとつの質問でした。「価格調査が専門であるあなたが何故、技術士という資格を必要とするのか。」この問いに「最適の技術と高い倫理観を持って調査を実施していることに信頼をいただき、公共工事の積算を通じて社会に貢献し続けるため」と回答したことを思い出し、社会貢献というキーワードで子ども達へアプローチしました。世の中に職業は数多あり、得意分野のスキルを磨いて様々な形で社会に貢献できる人になって欲しいし、それが仕事に対するモチベーションになる、というスタンスはそれなりに子ども達の心に響いたようで、授業後の子ども達からの感想は前向きなものが多く寄せられました。いつか私の授業を聞いた子ども達の中から技術士が誕生するかも知れません。その時に備える意味でもドヤ顔で講釈を垂れた私が技術力の研鑽を怠る訳にはいきません。これからも当会の業務を通じて社会に貢献できる技術士として精進して参りたいと思います。

土屋 岳生 (つちや たけお)

- 総合技術監理部門
- 建設部門(施工計画、施工設備及び積算)

勤務先

一般財団法人 経済調査会



→次号は、笠井秀男さん(建設部門)

生まれも育ちも札幌ですが、就職後はほぼ東京で過ごし、昨夏24年ぶりに異動で札幌に戻って参りました。おとなしく単身赴任をしております。

学生時代は気象学を専攻し、エアロゾルや酸性雪などやや化学寄りの研究などしていましたが、主にはジャズ研究会という退廃的なサークルでドラムを叩いていました。現在はもっぱら職員のお尻を叩いていますが…。たまには仕事を忘れて昔のように演奏をしたい気分です。

入社後しばらくは、調査部門で波浪・潮位の観測や統計解析、波浪・高潮の数値シミュレーションを担当していました。また、全国港湾海洋波浪情報網(ナウファス)やGPS波浪計を用いた沖合波浪観測システムの開発なども担当しました。その後、情報部門へ移り、様々なお客様へリアルタイムに情報を配信するシステムの構築や運用保守などに携わってきました。最近ではデータの種類や量・サイズが膨大になる一方、セキュリティリスクも複雑化し増大しています。安定性とセキュリティを維持しながら防災気象システムを24時間365日運用することは色々大変ですが、国民の安全安心や社会インフラの安定維持に貢献することが出来る、やりがいのある仕事です。

北海道支社に来てからは、調査解析、予報・解説、情報システムなどの業務全般に関わることになり、スリリングな日々を過ごしています。何が起きても動じない、しなやかな心を持ちたいものですが、喜んだり凹んだり、まだまだ修行が足りないです。もう少しキレのよいアドリブも必要そうです。北海道のお役に立てるよう頑張りたいと思いますので、よろしくお願ひします。

泉 裕明 (いずみ ひろあき)

- 建設部門(港湾及び空港)
- 情報工学部門(情報システム・データ工学)

勤務先

一般財団法人 日本気象協会
北海道支社



→次号は、中田琢志さん(建設部門)